2自治会が会館の完成を祝う

江刈馬渕自治会と山岸自治会で祝賀会

10月29日に江刈馬渕自治会で、11月18日に山岸自治会で、それぞれ自治会館の完成を記念し祝賀会が開催されました。

両自治会では、これまで独自に設置した集会施設を使用してきましたが、老朽化に伴い町が新たに施設を整備し、令和2年3月に山岸自治会館が、令和5年3月に江刈馬渕自治会館が完成しました。両施設ともホールや和室、調理室などのほか浴室も整備され、住民のコミュニティの場になるとともに災害時には避難所としての機能も期待されます。

祝賀会で江刈馬渕自治会の上遠野光一会長は「関係者の皆さんに感謝し、この施設を地域の交流の場にしていきましょう」と呼び掛け、山岸自治会の野中克則会長は「コロナ禍でできなかった祝賀会をやっと開催でき嬉しく思う。自治会の発展のために活用していきましょう」とあいさつしました。

完成した施設は自治会が町の指定を受け管理運営していきます。

祝賀会で施設の完成を祝う江刈馬渕自治会㊤と山岸自治会の皆さん

江刈馬渕自治会館

山岸自治会館

ミニバスクラブ結成50周年

節目の年にさらなる発展を誓う

葛巻ミニバスケットボールクラブが結成50周年を迎え、11月18日、グリーンテージで関係者約60人が出席し記念祝賀会が開催されました。

同クラブは昭和48年に県内で初めて結成。盛岡地区、県北地区を中心に、県のミニバス普及に大きく貢献してきました。

町バスケットボール協会の楢木智会長は「勝てなくても続けることを大切にして、1350人もの修了生を輩出してきた。今後も長く活動をつなげていきたい」とさらなる発展を誓いました。

50周年を祝い乾杯する関係者の皆さん

クラブ創始者の一人である近藤豊美彦さん（田子）は「バスケ用語も十分に知らないまま始めた活動だったが、50年も続いて嬉しく思う」と振り返り、静岡県沼津市から駆けつけた4回生の寺坂渉さんは「今もミニバス魂でシニアのチームで活動している。昔習ったことは忘れない」と当時を懐かしんでいました。

記念事業のキャンプ 全日本コーチが指導

10月15日には、同クラブの記念事業「ER CAMP in 岩手県葛巻町」が社会体育館で開催され、北東北3県の小学生と指導者約150人が参加しました。

講師は日本バスケットボール協会技術委員長の東野智弥さんと女子日本代表アシスタントコーチの鈴木良和さん。

ディフェンスを指導する鈴木コーチ㊨

2人は「仲間の気持ちを前向きにする声掛け」や「子どもに介入しすぎず、できるようになるのを待つ」など選手と指導者それぞれに熱く伝え、参加者は日本のトップレベルの指導に熱心に耳を傾けていました。村木智美さん（下町）は「先進的な指導方法を知ることができた。一人一人にリーダーシップを持たせることを意識していきたい」と話していました。

大学生が企画・運営

町外の若者と心温まる交流

◀もっとくずまき Instagram

11月4日と5日の2日間、町家旧遠藤邸（新町）などで大学生が企画した交流イベント「もっとくずまき2023」が開催されました。

この事業は、大学生と町民の交流を通じて若い世代の関係人口を構築しようと町が主催。NPO法人SETが事業を受諾し、大学生を募って企画、運営を行いました。

春から主体となって活動してきた5人の学生のほか、当日町を訪れた学生は15人。「町民にもっと町を好きになってもらいたい」とさまざまな企画や交流の場を用意しました。

旧遠藤邸には、子どもたちが学生とゲームなどを楽しんだり、こたつで語り合う居場所が設けられ、訪れた人はアットホームな雰囲気で会話を楽しんでいました。また、大きな半紙にダイナミックに筆を振るう書道パフォーマンスでは、学生に促された町民も書道に挑戦。慣れないながらも思い切りよく文字を書き、書道をきっかけに学生たちと話を弾ませていました。

遠藤邸に集い学生と交流する皆さん

学生のアドバイスを受け書道に挑戦

葛巻小学校の体育館では、小学生が大学生とさまざまなスポーツや運動を楽しみました。鬼ごっこやサッカーなど子どもたちのリクエストに学生が次々と応え、子どもたちは大学生とすっかり仲良くなっていました。

城内小路の馬淵川さくら公園では焚き火を囲むイベントが開催されました。中高生など若い世代が大学生と焼き芋や焼きマシュマロを楽しみ、春から大学生の活動を支援してきた町民らも駆けつけ、心温まる交流の場となりました。

学生とスポーツを楽しんだ子どもたち

旧遠藤邸で学生と会話を楽しんだ髙村陽子さん（新町）は「大学生との交流はとても刺激になった。このような取り組みがきっかけで、町に若い人が集まるようになるのではないか」と話していました。

企画メンバー代表の松田由希菜さん（早稲田大学1年）は「たくさんの大学生が町に関わってくれて、終了後には涙する人もいた。当日を迎えるまでは不安だったが、これまで関わってきた町の人や高校生、チラシを見て来てくれた人などたくさん参加してもらい、これからも葛巻に関わっていきたいと思える2日間だった」と振り返っていました。

焚き火を囲み交流する皆さん

町では今後も町外の若者と町民の幅広い交流を促進し、関係人口の拡大を図っていきます。